



決め手は、青森県産。



りんご・特産果樹生産情報（号外）
（春作業について）

令和2年3月12日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

発芽は早まる見込み！
春作業の準備を急ごう！
りんご黒星病の越冬落葉処理を実施しよう！！
薬剤散布は遅れずに！！！！

本年は、1～3月上旬の気温が平年より高めに経過したため、りんご及び特産果樹の発芽は早まる見込み。このため、施肥や薬剤散布、マメコバチの活動時期の調節、霜害防止対策などの春作業の準備を急ぐ。

りんご黒星病の菌密度を低下させるため、下草が生育し始める前のできるだけ早い時期に越冬落葉を除去するかすき込む。

おうとうやももなどの「発芽前」の薬剤散布は、自園地の状況を確認し、遅れないよう実施する。

1 生育の進み

気温は1～3月上旬が高めに経過したため、発芽は早まる見込みである。

うめ‘豊後’の発芽日は、五戸（りんご研究所県南果樹部）で平年より12日早い3月9日であった。

なお、消雪日は、黒石で平年より20日早い3月9日、五戸で平年より14日早い3月6日であった。

○りんごの発芽日 (月. 日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	平 年	4. 8	4. 6	4. 8	4. 9
	前 年	4. 6	4. 3	4. 5	4. 6
五 戸 (県南果樹部)	平 年	4. 9	4. 7	4. 8	4. 9
	前 年	4.10	4. 6	4. 6	4. 8
青森市浪岡 (東青地域県民局)	平 年	4.10	-	4. 8	4.11
	前 年	4.10	-	4. 8	4.10
弘前市独狐 (中南地域県民局)	平 年	4. 8	4. 5	4. 5	4. 8
	前 年	4. 7	4. 2	4. 5	4. 8
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	平 年	4. 8	4. 6	4. 6	4. 9
	前 年	4. 6	4. 2	4. 5	4. 6
三戸町梅内 (三八地域県民局)	平 年	4. 7	4. 6	-	4. 8
	前 年	4. 7	4. 7	-	4. 7

注) 発芽日：頂芽の頂部が破れ、青味の現れたものが3個以上認められたとき
平年値：1996年～2015年の20か年平均。

○特産果樹の発芽日 (3月12日現在、りんご研究所県南果樹部)

年	ぶどう (露地)		おうとう	も も	西洋なし		う め
	キャンベル・ アーリー	スチューベン	佐藤錦	川中島 白 桃	ゼネラル ・レクラーク	ラ・フランス	豊 後
本年	—	—	—	—	—	—	3. 9
平年	4.29	4.30	4.23	4.18	4.12	4.11	3.21
前年	4.24	4.29	4.21	4.17	4.14	4.14	3.17

注) 平年値：2000年～2019年の20か年平均。ただし、川中島白桃は2004年～2019年の16か年平均。

2 作業の重点

(1) りんご

ア 黒星病対策

りんご黒星病の発生防止には、菌密度を低下させるための耕種的防除が重要である。

下草が生育し始める前のできるだけ早い時期に、越冬落葉を除去するかすき込む。

(ア) 越冬落葉の除去

越冬落葉をレーキや竹ぼうき等で集め、園地外へ搬出・処分する。作業時間は竹ぼうきを使用した場合、10a当たり延べ27時間程度である。

(イ) 越冬落葉のすき込み（中耕）

樹列の片側にある越冬落葉をレーキで樹冠下に集め、深さ5 cmで1回、小型耕うん機で耕うんする。作業時間は10 a 当たり延べ9.5時間程度である。

(ウ) 処理時期

下草が生育し始めると越冬落葉とからみついて処理しにくくなるので、下草が生育し始める前のできるだけ早い時期に作業を終える。

イ 施肥

消雪後できるだけ早く、遅くとも4月20日頃までに行う。

ウ マメコバチの活動時期の調節

本年はマメコバチの活動が早まると見込まれるので、巣筒の状態を確認し、まゆを破るカチカチという音がし始めた頃に、巣箱を0～5℃の冷蔵庫に入れる。

(2) ぶどう

ア 園地の点検

雪で傾いた支柱や破損した腕木を取り替え、架線の緩んでいるものは、補強して主枝を結束し直す。また、病害の発生源となる架線上の巻きひげや成り跡を切り取って、粗皮はぎを行い処分する。

イ 施肥

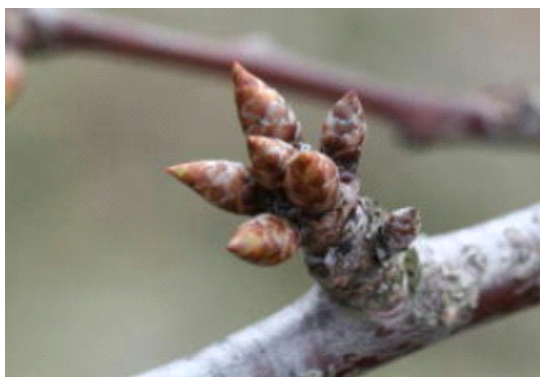
基肥を秋期に施用している園地では消雪後、速やかに（4月上旬）標準施肥量の10%程度を追肥として施用する。標準施肥量は、成木10 a 当たり成分量で窒素15kg、リン酸10kg、カリ10kgである。

(3) おうとう

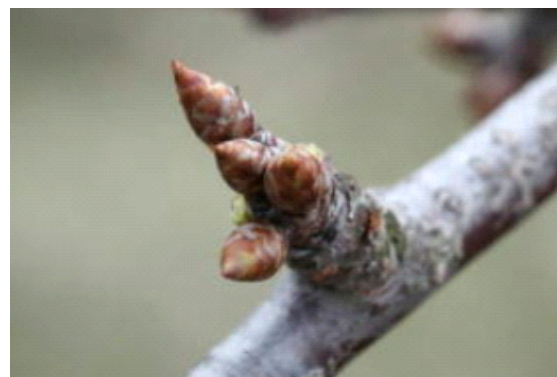
ア 摘芽

大玉、良品生産には摘芽の効果が高いので、催芽前に行う。実施する際は、葉芽は必ず残し、花束状短果枝の花芽を3芽程度残すようにする。また、開花時には人手授粉を必ず行う。

なお、霜の常襲地帯や花芽の少ない樹、樹勢の強い樹では、摘芽は行わない。



摘芽前（花芽数：6個）



摘芽後（同：3個、大きい花芽を残す）

イ 病虫害防除

ウメシロカイガラムシ対策として、「発芽前」にハーベストオイル50倍又はトモノールS 50倍を散布する。発生が多い樹では、「発芽前」の薬剤散布前にワイヤーブラシ等で越冬成虫を落とす。

(4) も も

ア 病虫害防除

縮葉病及び黒星病対策として、「発芽前」にチウラム剤（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）500倍又は石灰硫黄合剤7倍を散布する。なお、「発芽前」に縮葉病対策としてキノンドー水和剤40の500倍を散布すると、この時期の黒星病対策の防除剤は必要ない。「発芽前」の散布は、縮葉病防除の基本であるので、散布むらがないよう丁寧に行う。

(5) な し

ア 病虫害防除

リンゴハダニが多い園地では、「発芽前」にハーベストオイル50倍又はスピンドロン乳剤50倍を追加散布する。

アブラムシ類及びハマキムシ類対策として、「発芽期」にダイアジノン水和剤34の1,000倍を散布する。

(6) すもも

ア 病虫害防除

ふくろみ病対策として、「発芽前」にチウラム剤（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）500倍を散布する。

(7) 共通事項

ア 剪定、枝片付け

施肥や薬剤散布などの春作業に支障のないように、剪定や枝片付けを急ぐ。剪定後は切り口保護のため、塗布剤を速やかに塗布する。

イ 野ネズミ対策

地際付近の樹皮を完全に一周して食害された場合は、盛り土を行いカルスの形成を促すと同時に、可能なものは寄接ぎを行う。

地際部以外では、食害の程度に応じて塗布剤を塗布するか、植え替える。

ウ 薬剤防除の準備

スピードスプレーヤの点検・整備を行う。

エ 霜害防止対策

花芽の耐凍性は発芽とともに低下し、霜害を受ける危険性が高くなるので、防霜ファンの作動確認や燃焼器、燃焼資材を早めに準備する。

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次の Web サイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<https://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように、農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

《 りんご黒星病の予想感染危険日 》

黒星病徹底防除推進期間中(4月～6月)、りんご黒星病の予想感染危険日と感染危険度をアップルネット (<https://www.applenet.jp/>) に掲載する予定です。

予想感染危険日は、天気予報から予想した黒星病が感染する危険性が高い日です。感染危険日に散布を予定している場合は、気象情報に注意し、降雨前散布を徹底しましょう。

感染危険度は過去の気温と湿度のデータから黒星病が感染した危険性が高かったことを示しています。

農作業安全を心がけましょう！

融雪水による園地浸水や土砂災害に注意しましょう！

「令和2年産りんごの生産情報第1号」及び「令和2年産特産果樹の生産情報第1号」は4月上旬に発行予定です。

連絡先 : りんご果樹課生産振興グループ
電話番号 : 017-722-1111代表
 内線 5097, 5092
 017-734-9492直通